

令和3年度

山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査

結果の概要

山梨県総合教育センター

# 令和3年度 山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査 結果の概要

山梨県総合教育センター

## 1. 調査の目的

小学校及び中学校における学習指導要領に基づく教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を調査することで、指導上の課題を明らかにして、今後の学校における学習指導の改善に資する。

## 2. 調査の対象等

対象学年	校数	受検児童生徒数	調査教科	出題範囲
小学校第6学年	16校	624人	社会	小学校第5学年の学習内容から出題
		624人	理科	
中学校第3学年	9校	626人	社会	中学校第2学年の学習内容から出題
		623人	理科	
		625人	英語	

※該当学年において、児童生徒数の約1割になるよう、無作為抽出した。

## 3. 調査の日時

区分	小学校	中学校
実施期間	令和3年5月17日（月）から6月4日（金）までの期間 学校ごと実施	
調査教科 (実施時間)	社会・理科（各40分）	社会・理科・英語（各45分）

## 4. 各教科の主な結果

校種・学年・教科	設問数	県正答率	目標値※	目標値との差	全国正答率
小・6・社会	28問	54.1%	62.9%	-8.8	60.7%
小・6・理科	30問	59.6%	64.3%	-4.7	66.2%
中・3・社会	28問	56.8%	55.4%	+1.4	55.5%
中・3・理科	35問	57.4%	57.4%	0.0	58.1%
中・3・英語A	32問	66.1%	62.8%	+3.3	62.9%
中・3・英語B	32問	67.5%	62.8%	+4.7	62.8%

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合（問題作成業者により設定）

## 5. 全体的な傾向の分析・考察

- ・小学校社会、理科は、目標値を下回っており、特に知識・技能の定着に課題がある。
- ・中学校社会、理科、英語は、目標値とほぼ同程度であり、おおむね良好な状況である。

## 6. 授業改善への取組

- ・各学校における具体的な授業改善に生かすために、分析結果を反映させた研修や学校訪問による指導等を行い、各学校の授業改善に向けた取組につなげる。
- ・教員を対象とした学力向上フォーラム（8月20日実施）において、分析結果を公表し、本県児童生徒の各種学力調査における成果と課題、対応策を共有する。
- ・課題のある学習内容について「ピックアップ問題」を作成、配信する。各学校は、「ピックアップ問題」を用いて、調査該当学年を含め全校体制で授業改善や個別の指導に生かす。

令和3年度 調査結果と授業改善のポイント【小学校・社会】

「知識・技能」の定着に課題が残る

- ・小6社会は、教科全体の正答率が54.1%で、目標値を8.8ポイント下回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が58.9%で、目標値を9.1ポイント下回った。

対称児童数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
624人	28問	54.1%	62.9%	-8.8	60.7%

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	28	54.1	62.9	-8.8	60.7
		基礎	18	59.3	68.9	-9.6	66.8
		活用	10	44.8	52.0	-7.2	49.6
	領域	国土の自然などの様子	6	48.1	58.3	-10.2	55.6
		農業や水産業	8	52.3	61.9	-9.6	57.6
		工業生産	7	49.6	56.4	-6.8	56.1
		産業と情報の関わり	4	65.8	75.0	-9.2	74.0
		国土の自然環境と国民生活	3	65.7	73.3	-7.6	71.9
	評価の観点	知識・技能	20	58.9	68.0	-9.1	66.9
		思考・判断・表現	8	41.9	50.0	-8.1	45.2
主体的に学習に取り組む態度		10	44.8	52.0	-7.2	49.6	
解答形式	選択式	19	60.8	67.4	-6.6	66.2	
	短答式	7	42.2	55.7	-13.5	52.2	
	記述式	2	31.4	45.0	-13.6	38.3	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の 内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			国 土	農 水	工 業	情 報	環 境				
1	選択	○				世界の中の 国土	○					赤道について理解している。	43.6	50.0	53.5
2	選択	○					○					中国の国旗と位置について理解している。	89.4	90.0	88.9
3	選択	○					○					日本の領土の東端について理解している。	42.8	50.0	51.7
4	選択	○		○	○	日本の国土 と人々のく らし	○					日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っている。	38.3	50.0	47.6

教育課程実施状況調査 【小学校・社会】

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の 内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均		
		知	思	態			国 土	農 水	工 業	情 報	環 境						
5	選択		○			日本の国土 と人々のく らし	○					日本の気候の特徴に着目して、瀬戸内海の気候について、適切な雨温図を判断している。	17.8	40.0	24.1	①	
6	短答	○					○						季節風について理解している。	56.7	70.0		68.0
7	短答	○		○	○	日本の農業		○				都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめている。	49.5	60.0	55.1		
8	選択	○						○					稲作の工夫や努力について資料を読み取っている。	80.1	85.0		82.5
9	記述		○	○	○	日本の水産 業		○				地図に着目して、日本周辺の海流と漁場の関係について捉え、表現している。	24.2	40.0	30.0	②	
10	選択		○	○	○			○					複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉え、判断している。	72.3	70.0		77.7
11	選択		○	○	○	日本の食料 生産		○				日本の食料自給率に着目して、適切な資料を判断している。	65.7	60.0	56.8		
12	短答	○						○					地産地消について理解している。	48.6	60.0		62.1
13	短答	○						○					トレーサビリティについて理解している。	3.4	40.0		16.8
14	選択	○						○					日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取っている。	74.5	80.0		79.8
15	選択	○				自動車をつ くる工業			○			自動車工場の作業工程について理解している。	65.7	70.0	68.0		
16	選択	○							○				日本の自動車の海外生産台数の変化について、資料を読み取っている。	45.7	50.0		55.1
17	短答		○	○	○				○				会話に着目して、これからの自動車について考え、判断している。	36.7	40.0		39.5
18	選択	○				日本の工業 生産			○			日本の工業生産の変化について、資料を読み取っている。	73.7	85.0	84.8		
19	短答	○		○	○				○				大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取っている。	42.0	50.0		55.4
20	選択	○							○				日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取っている。	55.6	60.0		61.6
21	選択		○	○	○				○				まとめに着目して、国内の製鉄所の立地について考え、適切な分布を判断している。	27.9	40.0		28.3
22	選択	○				情報を生か した産業				○		メディアの特徴を理解している。	88.1	90.0	90.9	③	

教育課程実施状況調査 【小学校・社会】

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の 内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			国 土	農 水	工 業	情 報	環 境				
23	選択	○				情報を生かした産業				○		情報を伝える側が意識していることについて理解している。	69.6	80.0	80.8
24	選択	○								○		インターネットを利用するときの注意点について理解している。	66.8	80.0	77.7
25	記述		○	○	○	自然環境と国民生活				○		資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現している。	38.6	50.0	46.5
26	選択	○								○		津波から生活を守る取り組みについて理解している。	85.9	90.0	88.3
27	短答	○								○		天然林と人工林について理解している。	58.8	70.0	68.6
28	選択		○	○	○					○		条例に着目して、環境を守るきまりを捉え、判断している。	52.4	60.0	58.9

④

①～④は課題となる設問を示している。

【課題となる設問】①大問2(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	17.8	40.0	-22.2	24.1	-6.3	思	選択
問題の内容	日本の国土と人々の暮らし						
出題のねらい	日本の気候の特徴に着目して、瀬戸内海の気候について、適切な雨温図を判断している。						

【課題となる設問】②大問3(3)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	24.2	40.0	-15.8	30.0	-5.8	思態	記述
問題の内容	日本の水産業						
出題のねらい	地図に着目して、日本周辺の海流と漁場の関係について捉え、表現している。						

【課題となる設問】③大問6(4)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	27.9	40.0	-12.1	28.3	-0.4	思態	選択
問題の内容	日本の工業生産						
出題のねらい	まとめに着目して、国内の製鉄所の立地について考え、適切な分布を判断している。						

【課題となる設問】④大問7(3)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	66.8	80.0	-13.2	77.7	-10.9	知	選択
問題の内容	情報を生かした産業						
出題のねらい	インターネットを利用するときの注意点について理解している。						

【授業改善のポイント】

○「知識・技能」の定着に課題（経年的課題）

児童の問題意識に基づく学習問題の解決に向けた学習活動を通して、知識・技能の定着を目指す

依然として「知識・技能の定着」に課題がみられる。単に暗記だけの学習になっていると思  
考・判断・表現等とも連動する「使える知識や技能」の習得につながらないと考えられる。児童が  
疑問をもち、それを追究・解決するために、見通しをもって学習を進めていくことが必要だと考え  
られる。特定の学年や単元ではなく社会科全体の視点から授業改善のポイントとして4点を示す。

(1) 問題解決的な学習の位置付け

- ・児童の疑問を引き出すような教材を工夫していますか？
- ・児童の疑問を引き出すような発問を工夫していますか？  
(例)「これは何でしょう？」→「～であるのに、なぜこのようになっているのだろう？」
- ・児童が疑問を解決するために根拠となる資料を活用していますか？

(例) 大問2(2)に関連して雨温図の活用について  
気候の特色の理解を目指す場面では、雨温図を活用した実践が必要である。  
①月ごとの気温(℃)を折れ線グラフ、降水量(mm)を棒グラフで表している等の特徴を確認する。  
②気温の目盛りの一番下が0ではないことを確認する。  
③月別平均気温と降水量の変化に着目し、季節のサイクルを捉える。  
④いくつかの都市の雨温図を比べてみることで、気候の特徴を見出す。  
⑤〇〇地域では、1年を通して降水量が多い(少ない)ことに着目し、なぜ降水量が多い(少ない)のか、その背景に気付く。

(2) 学習過程の評価

- ・学習問題に対応したまとめを実施していますか？  
→児童自身による振り返り  
教師による振り返り

(3) 単元等の授業デザイン

- ・単元で身に付けさせたい資質・能力の明確になっていますか？
- ・児童の疑問を解決するための学習計画を立てていますか？  
(例) 疑問→学習問題の設定→予想→学習計画

(4) 獲得した知識・技能の継続した活用

- ・他の場面でも意識して活用していますか？(横の系統性の理解)
- ・他の学年でも意識して活用していますか？(縦の系統性の理解)

令和3年度 調査結果と授業改善のポイント【小学校・理科】

「知識・技能」の定着に課題が残る

- ・小6理科は、教科全体の正答率が59.6%で、目標値を4.7ポイント下回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が62.4%で、目標値を6.0ポイント下回った。

対称児童数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
624人	30問	59.6%	64.3%	-4.7	66.2%

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	教科全体	30	59.6	64.3	-4.7	66.2	
	基礎・活用	基礎	21	64.7	70.0	-5.3	72.0
		活用	9	47.7	51.1	-3.4	52.5
	領域	物質・エネルギー	9	48.7	53.3	-4.6	53.6
		生命・地球	21	64.3	69.0	-4.7	71.5
評価の観点	知識・技能	16	62.4	68.4	-6.0	69.8	
	思考・判断・表現	14	56.4	59.6	-3.2	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	5	45.8	49.0	-3.2	50.0	
解答形式	選択式	20	62.0	65.8	-3.8	67.6	
	短答式	8	59.4	66.9	-7.5	68.0	
	記述式	2	36.6	40.0	-3.4	44.1	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の内容	領域		出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			物 工	生 地				
1	短答	○				天気の変化		○	日本付近でよく見られる雲の動き方を理解している。	59.1	70.0	71.6
2	選択		○					○	雲の量から天気を判断することができる。	29.6	60.0	57.8
3	選択		○					○	気象衛星の雲画像と雨量情報を結びつけて考えることができる。	92.0	85.0	92.0
4	選択		○					○	雲画像から、翌日の天気を予測できる。	56.6	55.0	57.7
5	選択		○	○	○	植物の発芽と成長		○	仮説を確かめるための対照実験と結果を構想することができる。	50.3	50.0	48.3
6	短答	○						○	種子の発芽に必要な養分をでんぷんと呼ぶことを理解している。	74.8	80.0	84.4
7	選択		○	○	○			○	植物の成長に必要な条件をもとに、ミニトマトを育てるのに適切な場所を推測することができる。	50.2	50.0	50.7

教育課程実施状況調査 【小学校・理科】

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の内容	領域		出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		知	思	態			物 工	生 地					
8	選択	○				けんび鏡の使い 方		○	けんび鏡の使い方を身に付けてい る。	57.9	65.0	65.5	
9	選択	○						○	けんび鏡の見え方を理解している。	18.1	30.0	26.5	②
10	短答	○				人のたんじょう		○	卵と精子が結び付くことを受精と呼 ぶことを理解している。	76.9	80.0	81.1	
11	選択	○						○	人の子どもが胎内にいる期間と生ま れたときの大きさを理解している。	69.6	80.0	81.2	
12	選択		○			魚のたんじょう		○	水槽の中のメダカのおすを指摘でき る。	96.5	85.0	96.9	
13	選択	○						○	メダカのたまごの育つ順番を理解し ている。	93.4	85.0	95.1	
14	選択	○				植物の花のつく りと実		○	ヘチマの花のつくりを理解してい る。	53.8	70.0	69.9	③
15	選択	○						○	アサガオの花粉がつくられる部分を 理解している。	53.0	60.0	59.2	
16	記述		○	○	○			○	ヘチマとアサガオで、実験の結果に 違いがあった理由を説明することが できる。	42.0	50.0	54.9	
17	短答	○				流れる水のはた らき		○	侵食について理解している。	62.5	75.0	79.0	
18	選択	○						○	大きくて角張った石が見られる場所 を理解している。	96.2	85.0	95.0	
19	選択		○					○	川の増水により、土地のようすが変 わることがあることを指摘できる。	86.2	85.0	89.2	
20	選択	○				物のとけ方	○	○	物をとくす前後で全体の重さは変わ らないことを理解している。	82.4	80.0	83.0	
21	選択	○						○	水溶液は均一になることを理解して いる。	16.0	30.0	21.7	
22	短答		○		○			○	グラフを読み取り、食塩水とミョウ パンの水溶液を判断する方法を推測 することができる。	49.8	50.0	49.2	
23	選択	○				電流のはたらき		○	電磁石の極の性質について理解して いる。	53.0	60.0	59.5	
24	短答		○		○			○	電磁石の力を強くする条件を調べる 対照実験の誤りを指摘できる。	40.9	55.0	54.8	④
25	短答	○			○			○	電流の大きさを大きくすると、電磁 石の力が強くなることを理解してい る。	55.8	60.0	61.2	
26	選択	○				天気の変化		○	台風の進み方を理解している。	76.0	85.0	83.1	
27	短答		○	○				○	台風による被害が台風のどのような 特徴によるものか推測することがで きる。	55.1	65.0	62.9	
28	選択		○		○	ふりこのきまり	○	○	メトロノームのおもりを上下に動か すことが、ふりこの何の条件を変え ることか指摘できる。	74.2	75.0	79.2	
29	選択		○		○			○	予想が正しいとした場合に得られる 結果を推測することができる。	34.6	40.0	40.9	
30	記述		○	○	○			○	実験の結果から、メトロノームのテ ンポを速くする方法を判断し、その 理由を説明することができる。	31.3	30.0	33.2	

①～④は課題となる設問を示している。

教育課程実施状況調査 【小学校・理科】

【課題となる設問】①大問1(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	29.6	60.0	-30.4	57.8	-28.2	思	選択
問題の内容	天気の変化						
出題のねらい	雲の量から天気を判断することができる。						

【課題となる設問】②大問3(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	18.1	30.0	-11.9	26.5	-8.4	知	選択
問題の内容	けんび鏡の使い方						
出題のねらい	けんび鏡の見え方を理解している。						

【課題となる設問】③大問6(1)①

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	53.8	70.0	-16.2	69.9	-16.1	知	選択
問題の内容	植物の花のつくりと実						
出題のねらい	へちまの花のつくりを理解している。						

【課題となる設問】④大問9(2)①

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	40.9	55.0	-14.1	54.8	13.9	思	短答
問題の内容	電流のはたらき						
出題のねらい	電磁石の力を強くする条件を調べる対照実験の誤りを指摘できる。						

【授業改善のポイント】

観察、実験器具の操作に関することや、実験結果の考察を考えたり記述したりすることに経年的な課題がみられる。これらの課題を踏まえ以下に授業改善のポイントを示す。

(1) 目的に応じて観察、実験器具を操作することができるような工夫をする

- ・観察、実験器具の操作の目的を明確にする。
- ・器具の操作の手順の理解だけでなく、操作の意味を捉える授業展開をする。
- ・協働的な学習の中で、観察、実験器具の誤った操作に気づき、適切に操作する方法が行えるようにする。
- ・観察、実験の充実を図るため、実験器具等の配置を児童に周知しておき、児童が活動しやすいようにする。

(2) 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することを重視する

- ・実験結果を表に整理する際、定量的に表せるようにする。
- ・考察においては、実験結果という事実と解釈の両方を整理して説明する。

(3) 実験の見通しを持ち、解決の方向性について構想し、より妥当な考えへ改善できるような工夫をする

- ・予想や仮説を発想して自分の考えを明確にするために、図などに表現できるようにする。
- ・実験の前に自分の考えを持って話し合う場面を設定し、他者の予想の内容を把握する場面を設ける。
- ・自分の考えと異なる他者の予想も把握することで実験の見通しを持てるようにする。
- ・実験結果の見通しと実験結果を比較し、予想と実験結果の「一致」や「不一致」を明確にすることで、より妥当な考えに改善できるようにする。「不一致」の場合は予想や実験方法を見直し、より妥当な考えに改善できるようにする。

(4) 実験において「変える条件」と「変えない条件」を整理して実験の計画をたてる工夫をする

- ・その実験で扱う量にはどのようなものがあるか考えたり、整理したりする場面を設ける。
- ・実験を構想する際、「変える条件」と「変えない条件」について考える。
- ・条件を変えた場合どのようなようになるか予想する。

(5) 自然現象や、自然事象はまず実物をよく観察し、共通点や相違点について気付けるような工夫をする

- ・観察のスケッチにおいては、共通点や相違点を意識できるようにする。
- ・観察記録を黒板にはったり、拡大して提示したりして、各自が複数の観察記録を比較する活動を通して、共通性や相違点に気付けるようにする。
- ・実物を見ることを基本とし、より多角的に自然の事物・現象を捉えるためにICTを有効に活用する。

令和3年度 調査結果と授業改善のポイント【中学校・社会】

「社会的な思考・判断・表現」が良好である

- ・中3社会科は、教科全体の正答率が56.8%で、目標値を1.4ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも「社会的な思考・判断・表現」が52.5%で、目標値を1.7ポイント上回った。

対称児童数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
626人	28問	56.8%	55.4%	1.4	55.5%

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	28	56.8	55.4	1.4	55.5
		基礎	21	60.2	58.8	1.4	59.0
		活用	7	46.6	45.0	1.6	44.9
	領域	世界と比べた日本の地理的特色	7	69.3	65.0	4.3	67.0
		日本の諸地域	4	54.2	55.0	-0.8	53.9
		身近な地域の調査	2	46.1	50.0	-3.9	49.8
		近世の日本	10	57.7	56.0	1.7	56.7
		近代の日本と世界	5	44.1	43.0	1.1	40.7
評価の観点	社会的現象への関心・意欲・態度	7	47.9	46.4	1.5	47.2	
	社会的な思考・判断・表現	10	52.5	50.8	1.7	51.1	
	資料活用の技能	19	56.7	55.8	0.9	56.5	
	社会的事象についての知識・理解	27	57.4	56.0	1.4	55.6	
解答形式	選択式	20	56.6	55.5	1.1	55.5	
	短答式	6	57.8	55.8	2.0	56.5	
	記述式	2	56.5	52.5	4.0	52.3	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	思	技	知			日 特	日 諸	身 調	近 世	近 代					
1	選択			○	◎		世界と比べた日本の地域的特色	○					環太平洋造山帯の特色について理解している。	56.7	65.0	60.2	
2	短答			○	◎			○						季節風について理解している。	93.4	85.0	90.9
3	選択			○	◎			○						三角州について理解している。	65.2	55.0	54.9
4	選択		◎	○	○			○						世界各地の気候について、雨温図を判断することができる。	83.1	75.0	82.3
5	選択	○		◎				○						情報通信網の発達について、複数の資料をもとに把握することができる。	60.2	55.0	61.4

教育課程実施状況調査 【中学校・社会】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			目 特	目 諸	身 調	近 世	近 代				
6	記述	○	◎	○	○	表	世界と比べた日本 の地域的特色	○					日本の産業について、産 業の分類に関する理解を もとに、複数の資料を読 み取り、表現することが できる。	72.4	65.0	66.8
7	短答			○	◎		日本の諸地域		○				北海道地方や九州地方の 涼しい気候で発展した酪 農について理解している。	51.0	50.0	51.6
8	選択		○	◎	○				○				日本の工業地帯・工業地 域の工業生産について、 資料をもとに把握するこ とができる。	69.3	75.0	72.1
9	選択				◎				○				東北地方の地形や産業、 行事について理解してい る。	57.8	55.0	52.9
10	選択		◎	○	○		世界と比べた日本 の地域的特色	○					日本の人口と過疎・過密 問題について、人口ピラ ミッドをもとに考察する ことができる。	54.2	55.0	52.4
11	短答			◎	○		身近な地域の調 査			○			縮尺に着目して地形図を 読み取ることができる。	43.0	45.0	45.6
12	選択			◎	○					○			地形図を読み取ることが できる。	49.2	55.0	54.0
13	選択			○	◎		ヨーロッパ人との 出会いと全国 統一				○		織田信長と豊臣秀吉の業 績について理解してい る。	20.0	30.0	18.4
14	選択		◎	○	○	思					○		織田信長と豊臣秀吉によ る政策について、資料を もとに判断することがで きる。	51.3	45.0	45.5
15	短答				◎						○		織田信長の統一事業につ いて理解している。	63.3	60.0	60.3
16	短答				◎						○			71.6	65.0	68.7
17	選択			◎	○		江戸時代				○		江戸幕府による大名統制 について、資料を読み取 ることができる。	83.7	75.0	82.6
18	選択	○	◎	○	○	思					○		江戸時代の貨幣経済の広 がりについて、資料をも とに判断することができ る。	36.7	40.0	41.9
19	選択				◎						○		江戸時代の文化について 理解している。	91.2	80.0	88.7
20	選択				◎						○		江戸幕府による政治改革 について理解している。	57.7	60.0	61.4
21	選択				◎						○		尊王攘夷運動の高まりに おける、長州藩の外国船 砲撃について理解してい る。	61.5	65.0	61.3
22	選択				◎			明治時代				○		明治政府による改革の流 れについて理解してい る。	52.6	50.0
23	短答				◎						○		地租改正について理解し ている。	24.6	30.0	21.8

①

教育課程実施状況調査 【中学校・社会】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	思	技	知			目 特	目 諸	身 調	近 世	近 代					
24	選択				◎		明治時代					○	国会開設の勅諭と政党の結成について理解している。	56.1	50.0	48.3	②
25	選択	○	◎	○	○	思							○	明治政府による改革について、資料をもとに判断することができる。	28.6	35.0	29.8
26	記述	○	◎	○	○	表	ヨーロッパ人との出会いと全国統一				○		織田信長の統一事業について、資料をもとに考察し、表現することができる。	40.6	40.0	37.8	
27	選択	○	◎	○	○	思	明治時代					○	明治政府による改革について、複数の資料をもとに判断することができる。	58.5	50.0	54.0	
28	選択	○	◎	○	○	思	日本の諸地域		○				北海道地方の観光業に関する課題について、複数の資料をもとに判断することができる。	38.5	40.0	38.8	

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 大問1(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	65.2	55.0	10.2	54.9	10.3	知	選択
問題の内容	世界と比べた日本の地域的特色						
出題のねらい	三角州について理解している。						

【目標値を上回る設問】②大問6(3)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	56.1	50.0	6.1	48.3	7.8	知	選択
問題の内容	明治時代						
出題のねらい	国会開設の勅諭と政党の結成について理解している。						

【課題となる設問】①大問3(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	49.2	55.0	-5.8	54.0	-4.8	技	選択
問題の内容	身近な地域の調査						
出題のねらい	地形図を読み取ることができる。						

【課題となる設問】②大問6(4)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	28.6	35.0	-6.4	29.8	-1.2	思	選択
問題の内容	明治時代						
出題のねらい	明治政府による改革について、資料をもとに判断することができる。						

【授業改善のポイント】

- 「社会的な思考力・判断力・表現力」を育成するための授業改善の継続
- 学び方の習得を目指した調査活動の位置付け

全体として全国平均を上回っており、用語等を答える設問については、いずれの分野・領域においても比較的高い正答率を示している。用語等の習得に向けた各校での取組の成果だといえる。また、経年的な課題であった「社会的な思考・判断・表現」に関する問題についても目標値を上回っている。社会科の「見方・考え方」を働かせた読解力の育成を目指すとともに、用語や事象について単なる言葉として捉えるのではなく、その背景や因果関係を理解した上で、その言葉がもつ「本質」を理解できるようにすることを意識した授業改善の成果と考えられる。このような授業改善の視点を継続していくことが必要である。一方、改善はみられるものの、資料をもとに判断する設問については課題とみることができる。また、身近な地域の調査等、調査方法に関する設問についても課題と言える。これらを踏まえ、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

(1) 実践の中への「発問」の位置付け

- ・身に付けさせたい資質・能力の育成につながる発問になっていますか？
- ・ねらいにせまるために発問が構成されていますか？

(2) 資料を使って考えたり、説明したりする活動の設定

- ・「発問」を追究する場面で根拠となる資料を継続的に活用していますか？
  - ・生徒が必要感をもつことができるような資料提示の工夫をしていますか？
  - ・調査活動など生徒が自力解決に挑戦できるような場面を設定していますか？
- また、調査方法等の「学び方」に関する指導を意識していますか？

(例) 大問3(2)に関連して

地形図の読み取りでは、縮尺、方位、等高線、地図記号の4点を理解していることが必要となる。

- ①縮尺は実際の距離を縮小した割合であること。
- ②方位は、地形図では上が北になり、下が南になること。
- ③等高線は高さの等しい地点を結んだ線で、間隔によって傾斜を読み取ることができること。
- ④地図記号は、建物や土地利用、交通路を表すものであること。

このような技能を繰り返し活用する場面を意図的・計画的に設定していく必要がある。

(3) 単元等のまとめを見通した授業デザイン

- ・単元等で身に付けさせたい資質・能力は明確になっていますか？
- ・生徒が問いを追究できるような単元等の計画になっていますか？

令和3年度 調査結果と授業改善のポイント【中学校・理科】

「観察・実験の技能」の定着に課題が残る

- ・中3理科は、教科全体の正答率が57.4%で、目標値と同等であった。
- ・観点別に正答率を見ると、「自然事象への関心・意欲・態度」が53.0%で、目標値を3.0ポイント上回った。一方、「観察・実験の技能」が61.7%で、目標値を3.3ポイント下回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
623人	35問	57.4%	57.4%	0.0	58.1%

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	教科全体	35	57.4	57.4	0.0	58.1	
	基礎・活用	基礎	25	59.1	60.0	-0.9	60.3
		活用	10	53.3	51.0	2.3	52.5
	領域	エネルギー	9	56.2	58.3	-2.1	54.9
		粒子	9	55.7	53.9	1.8	55.0
		生命	10	62.9	61.0	1.9	64.2
		地球	7	53.4	55.7	-2.3	57.3
評価の観点	自然現象への関心・意欲・態度	5	53.0	50.0	3.0	51.3	
	科学的な思考・表現	18	54.6	53.6	1.0	53.1	
	観察・実験の技能	4	61.7	65.0	-3.3	66.1	
	自然現象についての知識・理解	14	60.2	60.2	0.0	62.5	
解答形式	選択式	25	58.9	60.0	-1.1	60.1	
	短答式	7	57.9	55.7	2.2	58.2	
	記述式	3	43.5	40.0	3.5	41.4	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域				出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			エ ネ	粒 子	生 命	地 球				
1	選択	○		○			物質の成り立ち		○			炭酸水素ナトリウムを分解する実験を、安全に行うことができる。	62.0	65.0	66.2
2	選択				○				○			炭酸水素ナトリウムの分解前と分解後の、物質の性質を比べられる。	47.5	50.0	50.7
3	記述		○			表			○			炭酸水素ナトリウムを加熱したときに二酸化炭素が発生することを利用していることを説明できる。	37.9	40.0	35.8
4	短答				○		化学変化		○			熱を周囲に出しながら起こる反応を、「発熱反応」ということを理解している。	54.9	50.0	54.5

教育課程実施状況調査 【中学校・理科】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域				出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	思	技	知			エ ネ	粒 子	生 命	地 球					
5	選択		○				化学変化		○			加熱前の物質と加熱後の物質にうすい塩酸を加えたときの反応を考えることができる。	49.9	50.0	53.4	
6	選択	○	○			思			○				鉄と硫黄の反応について正しくない考察をしている人を指摘できる。	78.2	65.0	71.2
7	選択		○				化学変化と物質の質量		○			物質を単体、化合物に分類することができる。	77.7	70.0	72.0	
8	選択		○			思			○				化学変化に関する物質の質量変化の規則性から、加熱が不十分だった結果を指摘できる。	28.4	40.0	30.4
9	短答		○		○	思			○				化学変化における質量の保存について考察することができる。	64.7	55.0	61.1
10	選択			○			生物と細胞			○		核を染色する染色液について理解している。	76.6	80.0	79.5	
11	選択				○					○			動物の細胞には見られず、植物の細胞だけに見られるつくりを理解している。	49.4	50.0	52.5
12	選択				○		動物のからだのつくりとはたらしき			○		外界からの刺激に対する信号の伝わり方を理解している。	76.4	75.0	76.3	
13	選択				○					○			中枢神経について理解している。	48.0	50.0	50.1
14	選択		○				動物の分類			○		セキツイ動物を分類する特徴について考えることができる。	82.7	80.0	79.8	
15	選択				○					○			ハ虫類に分類される動物を理解している。	61.8	65.0	64.6
16	選択				○					○			無セキツイ動物について理解している。	61.5	60.0	64.4
17	選択		○				電流の性質	○				並列回路を流れる電流の大きさについて考えることができる。	73.2	65.0	68.5	
18	選択		○						○				直列回路に加わる電圧、流れる電流について考えることができる。	14.9	40.0	11.9
19	選択				○		電流の性質	○				電力と電圧から電流を求める式を理解している。	66.5	65.0	63.9	
20	短答	○	○			思			○				実験の結果から電気ポット内の水が沸騰するまでの時間を推測することができる。	32.1	40.0	31.0
21	選択		○				電流の正体	○				静電気の性質から、実験の結果を考えることができる。	63.9	65.0	63.4	
22	短答				○				○				摩擦によって生じる電気を、「静電気」ということを理解している。	86.7	80.0	91.6
23	選択			○			前線の通過と天気の変化			○		天気図記号から、天気と風向を読みとることができる。	67.6	70.0	74.5	
24	選択				○					○			低気圧からのびる前線について理解している。	57.6	65.0	65.3
25	選択				○					○			寒冷前線について理解している。	61.8	65.0	63.8

①

①

②

②

教育課程実施状況調査 【中学校・理科】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域				出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			エ ネ	粒 子	生 命	地 球				
26	選択			○			大気中の水蒸気 の変化				○	気温、湿度、飽和水蒸気量から露点を求められる。	40.8	45.0	44.3
27	選択		○								○	水蒸気の結露現象が起こりやすい条件を考えられる。	42.2	45.0	44.7
28	選択		○				日本の気象				○	気圧配置と風向の関係を理解している。	37.6	40.0	39.4
29	選択		○			思					○	日本の冬に見られる特徴的な気象について考えることができる。	66.0	60.0	69.4
30	短答		○				動物のからだの つくりとはたら き			○		表面積のちがいをモデルを使って考えることができる。	58.7	55.0	54.4
31	記述	○	○			表				○		小腸の表面積が広がることの利点を説明できる。	62.4	40.0	64.5
32	短答				○	思				○		肺で表面積が広がっているつくりを指摘し、交換している気体を考えることができる。	51.2	55.0	56.0
33	選択		○			思	電流と磁界	○				電磁石のまわりの磁界を考えることができる。	81.5	75.0	81.3
34	短答				○			○				コイルに磁石を近づけたときに生じる電流を、「誘導電流」ということを理解している。	57.0	55.0	58.9
35	記述	○	○			表		○				ICチップのコイルに電流が流れた理由を説明できる。	30.2	40.0	23.8

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を表している。

【目標値を上回る設問】①大問2（3）

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	78.2	65.0	13.2	71.2	7.0	思	選択
問題の内容	化学変化						
出題のねらい	鉄と硫黄の反応について正しくない考察をしている人を指摘できる。						

【目標値を上回る設問】②大問7（1）

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	73.2	65.0	8.2	68.5	4.7	思	選択
問題の内容	電流の性質						
出題のねらい	並列回路を流れる電流の大きさについて考えることができる。						

【課題となる設問】①大問3(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	28.4	40.0	-11.6	30.4	-2.0	思	選択
問題の内容	化学変化と物質の質量						
出題のねらい	化学変化に係る物質の質量変化の規則性から、加熱が不十分だった結果を指摘できる。						

【課題となる設問】②大問10(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	57.6	65.0	-7.4	65.3	-7.7	知	選択
問題の内容	前線の通過と天気の変化						
出題のねらい	低気圧からのびる前線について理解している。						

【授業改善のポイント】

全般的に基本的な知識については身に付いている。しかし、科学的な思考・表現や実験観察の技能を問う問題に課題がみられる。特に知識を活用し、説明する場面や実験の結果を分析する際、より妥当な考えをつくりだすために考察し、その内容を記述することに課題がみられる。領域別では、地球の「天気の変化」に関する知識・技能に経年的な課題がある。  
以上の課題を踏まえ以下に授業改善のポイントを示す。

□問題解決の過程における言語活動の充実を図る

- ・仮説を立てる際、観察、実験などの検証方法を討論しながら、考えが深め合えるようにする。
- ・予想や仮説、結果を考察する場面では、個で考える時間、グループで考える時間を確保する。
- ・グループで検討するときは、自分の考えを伝え、他者の考えを聞くことにより、より妥当な考えをつくりだせるようにする。
- ・予想と結果が一致しない場合は、その原因や解決の方法を考え、話し合う場面を設定する。
- ・実験結果を基に分析して考察したことを、科学的根拠を踏まえて記述できるようにする。

□科学技術と人間の生活のつながりについて考え、理科の知識・技能を活用し、科学的に探究する場面の設定をする

- ・既習の科学的な知識が、日常生活の場面でどのように活用されているか考える場面や、科学的に考えて新たな価値を見出そうとする場面を設ける。
- ・分野や領域を横断する課題を把握して、教材として取り上げる。
- ・科学技術が地球環境や生物にどのような影響を与えるかという視点がもてるように工夫する。

□理科の見方・考え方を働かせるような教材の提示と、多面的に考える場面を設定する

- ・複数の資料をもとにして、考えられることを話し合うなどの場面を設定する。
- ・理科の見方・考え方を働かせるような発問を工夫する。
- ・理科の見方・考え方を働かせるようにICTを効果的に活用する。

□観察、実験の結果の見通しがもてるような活動の工夫をする

- ・観察、実験器具の操作の目的を明確にする。
- ・器具の操作の手順の理解だけでなく、操作の意味を捉える授業展開をする。
- ・観察、実験の目的を明確化し、何を調べているのか、調べたらどうなるか、という見通しがもてるようにする。

令和3年度 調査結果と授業改善のポイント【中学校・英語A】

「外国語理解の能力」が良好である

- ・中3英語Aは、教科全体の正答率が66.1%で、目標値を3.3ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「外国語理解の能力」が69.4%で、目標値を3.5ポイント上回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
625人※	32問	66.1%	62.8%	3.3	62.9%

※英語A英語B受験者合計

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)
問題の内容	基礎・活用	教科全体	32	66.1	62.8	3.3
		基礎	20	70.8	67.5	3.3
		活用	12	58.2	55.0	3.2
	領域	聞くこと	9	71.9	70.0	1.9
		読むこと	14	66.1	62.1	4.0
		書くこと	9	60.2	56.7	3.5
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	14	63.3	61.1	2.2	
	外国語表現の能力	11	53.3	50.6	2.7	
	外国語理解の能力	17	69.4	65.9	3.5	
	言語や文化についての知識・理解	10	69.5	66.5	3.0	
解答形式	選択式	21	71.4	67.9	3.5	
	短答式	5	70.8	66.0	4.8	
	記述式	6	43.4	42.5	0.9	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理			知	聞	読				
1	選択	○		◎		リスニング (内容理解)	○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と物)	76.5	70.0	73.8
2	選択	○		◎			○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(したいことやほしい物)	97.1	90.0	96.1
3	選択	○		◎			○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(比較級・最上級)	68.5	70.0	70.8

教育課程実施状況調査 【中学校・英語A】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
4	選択	○		◎			リスニング (対 話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に 応答することができる。(見せてく れませんかとたずねられて)	70.3	70.0	67.3
5	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に 応答することができる。(通学手段 をたずねられて)	84.3	75.0	72.4
6	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に 応答することができる。(だれのギ ターかとたずねられて)	85.1	80.0	83.6
7	選択	○		◎		思	リスニング (さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の概要を聞き取ることが できる。	82.3	85.0	79.5
8	選択	○		◎		思	リスニング (さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の要点を聞き取ることが できる。	62.1	60.0	66.9
9	記述	○	○	◎		表	リスニング (対 話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、資料をも とに英語で答えることができる。	21.3	30.0	19.5
10	選択				◎		語形・語法の 知識・理解		○		語形・語法を理解することが できる。(be 動詞の過去形)	51.2	50.0	48.2
11	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(不定詞の副詞的用法)	56.8	55.0	51.5
12	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(must の否定文)	53.0	55.0	51.2
13	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(more を使った比較級)	75.6	75.0	72.3
14	選択				◎		語彙の 知識・理解		○		対話文の情報を正しく読み取 ることができる。	71.6	70.0	68.5
15	選択				◎				○		英文の情報を正しく読み取 ることができる。	84.0	75.0	82.1
16	選択			◎		思	さまざまな英文 の読み取り		○		英文と情報・条件をもとに、適 切なものを選ぶことができる。	91.4	80.0	90.9
17	選択			◎		思			○		英文の情報・条件をもとに、適 切なものを選ぶことができる。	86.9	75.0	84.5
18	選択			◎		思			○		対話の流れと資料から、適切 な語を判断することができる。	64.1	60.0	59.5
19	選択			◎		思			○		対話の流れから、登場人物の 適切な発言を判断することが できる。	61.0	55.0	61.7
20	選択			◎			長文の読み取り		○		下線部 that が指す内容を把握 することができる。	63.4	65.0	63.4
21	選択			◎					○		メールの内容を把握することが できる。	53.4	50.0	49.6
22	選択			◎					○			61.9	60.0	58.6
23	短答		○	◎		思			○		読み取った内容をふまえて、英 文を完成させることができる。	50.9	45.0	45.9
24	短答		○	◎			単語の並べかえ による英作文			○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(have to ~ の否定文)	79.8	75.0	73.2
25	短答		○	◎						○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(動名詞の疑問文)	84.9	75.0	77.7
26	短答		○	◎						○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(be going to の疑問文)	89.1	80.0	88.7
27	短答		○	◎						○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(look (SVC) の否定文)	49.2	55.0	55.7

教育課程実施状況調査 【中学校・英語A】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
28	記述	○	◎			表	場面に応じて 書く英作文			○	25.9	30.0	21.2	
29	記述	○	◎			表				○	21.4	30.0	14.2	
30	記述	○	◎				3文以上の 英作文			○	60.2	55.0	51.8	
31	記述	○	◎			表				○	70.2	60.0	62.2	
32	記述	○	◎			表				○	61.4	50.0	51.3	

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 大問2(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	84.3	75.0	9.3	72.4	11.9	理	選択
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(通学手段をたずねられて)						

【目標値を上回る設問】② 大問11(テーマに沿って、3文以上で書かれている。)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	61.4	50.0	11.4	51.3	10.1	表	記述
問題の内容	3文以上の英作文						
出題のねらい	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった3文以上の英文を書くことができる。						

【課題となる設問】① 大問5

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.3	30.0	-8.7	19.5	1.8	理	記述
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。						

【課題となる設問】② 大問10(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.4	30.0	-8.6	14.2	7.2	表	記述
問題の内容	場面に応じて書く英作文						
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whyを使って理由をたずねる)						

【授業改善のポイント】

○調査結果をふり返っての考察

ほぼ全ての項目において、目標値と全国平均を上回っていて、いずれの観点・領域においても、高い正答率を示している。特に、「聞くこと」「読むこと」の領域における「外国語理解」の部分で高い正答率を示しており、小学校外国語から英語を聞く場面に多く触れることで、英語を聞くことに慣れつつあることや、読む力を身に付けるために必要となる教科書等を読解するような場面での授業方法の改善等、様々な取組が成果となって表れて来たといえる。また経年的に課題のみられる領域である「書くこと」についても改善傾向がみられた。

しかし、複数の領域を統合させながら書いて解答するような問題において、課題がみられた。特に聞いたことをもとに書く場面や対話の流れに沿って書く場面など、複数の領域を活用しながら最終的に英語で書いてまとめるような力にはまだまだ課題が多く残っているといえる。

以上の考察をもとに、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

○授業改善のポイント

「複数の領域を統合させながら、最終的に書いてまとめる力」を高めるために

(1) 日々の授業で複数の領域を統合させた活動を意図的に取り入れる

例えば、教科書等の内容について、読んだことをもとに自分の意見や感想を友達と話す。話したことをもとに、友達の考えも参考にしながら、自分の意見や感想を書いてまとめるような活動を行う。

(2) 教師の発問などを有効的に活用しながら、書く活動はステップを踏んで取り組む

例えば、書く活動を行う際に、いきなり題材を与えるのではなく、教師の発問を有効的に与えながら、やり取りをしていく中で、つながりのあるまとまった英文を書くことができるようなステップを踏んだ場面を作る。

(3) 書いた英文を自分たちで確認し、間違いに気付く場面を設定する

例えば、完成した英文をペアやグループ等でお互いに読み合い、間違いがないか確認し合う。特に多く見られるような特徴的な間違いは教師がクラス全体で取り上げ、共有するなどしながら、英文を自分たちの力で修正し完成していくような場面を作る。

令和3年度 調査結果と授業改善のポイント【中学校・英語B】

「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」が良好である

- ・中3英語Bは、教科全体の正答率が67.5%で、目標値を4.7ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「外国語表現の能力」が57.1%で、目標値を6.5ポイント上回った。また、「外国語理解の能力」において、70.4%と最も正答率が高く、目標値を4.5ポイント上回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
625人※	32問	67.5%	62.8%	4.7	62.8%

※英語A英語B受験者合計

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	教科全体	32	67.5	62.8	4.7	62.8	
	基礎・活用	基礎	20	71.6	67.5	4.1	67.6
		活用	12	60.7	55.0	5.7	54.8
	領域	聞くこと	9	73.8	70.0	3.8	69.5
		読むこと	14	65.6	62.1	3.5	63.4
		書くこと	9	64.1	56.7	7.4	55.1
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	14	66.2	61.1	5.1	59.0	
	外国語表現の能力	11	57.1	50.6	6.5	47.6	
	外国語理解の能力	17	70.4	65.9	4.5	67.0	
	言語や文化についての知識・理解	10	70.1	66.5	3.6	66.9	
解答形式	選択式	21	71.8	67.9	3.9	69.0	
	短答式	5	72.9	66.0	6.9	68.2	
	記述式	6	47.9	42.5	5.4	36.7	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理知			聞	読	書				
1	選択	○	◎			リスニング (内容理解)	○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と物)	84.5	70.0	73.8
2	選択	○	◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(したいことやほしい物)	86.2	90.0	91.9
3	選択	○	◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(比較級・最上級)	71.3	70.0	70.8

教育課程実施状況調査 【中学校・英語B】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
4	選択	○		◎			リスニング (対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に 応答することができる。(見せてく れませんかとたずねられて)	73.6	70.0	67.3
5	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に 応答することができる。(通学手段 をたずねられて)	77.6	75.0	72.4
6	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に 応答することができる。(だれのギ ターかとたずねられて)	87.9	80.0	83.6
7	選択	○		◎		思	リスニング (さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の概要を聞き取ることで きる。	85.1	85.0	79.5
8	選択	○		◎		思	リスニング (さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の要点を聞き取ることで きる。	72.4	60.0	66.9
9	記述	○	○	◎		表	リスニング (対 話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、資料をも とに英語で答えることができる。	25.3	30.0	19.5
10	選択				◎		語形・語法の 知識・理解		○		語形・語法を理解することがで きる。(be 動詞の過去形)	45.4	50.0	48.2
11	選択				◎				○		語形・語法を理解することがで きる。(不定詞の副詞的用法)	55.2	55.0	51.5
12	選択				◎				○		語形・語法を理解することがで きる。(must の否定文)	55.2	55.0	51.2
13	選択				◎				○		語形・語法を理解することがで きる。(more を使った比較級)	71.3	75.0	72.3
14	選択				◎		語彙の 知識・理解		○		対話文の情報を正しく読み取 ることができる。	74.7	70.0	68.5
15	選択				◎				○		英文の情報を正しく読み取 ることができる。	84.5	75.0	82.1
16	選択			◎		思	さまざまな英文 の読み取り		○		英文と情報・条件をもとに、適 切なものを選ぶことができる。	90.8	80.0	90.9
17	選択			◎		思			○		英文の情報・条件をもとに、適 切なものを選ぶことができる。	85.6	75.0	84.5
18	選択			◎		思			○		対話の流れと資料から、適切 な語を判断することができる。	59.2	60.0	59.5
19	選択			◎		思			○		対話の流れから、登場人物の 適切な発言を判断することが できる。	61.5	55.0	61.7
20	選択			◎			長文の読み取り		○		下線部 that が指す内容を把握 することができる。	60.9	65.0	63.4
21	選択			◎					○		メールの内容を把握することが できる。	60.3	50.0	49.6
22	選択			◎					○			64.4	60.0	58.6
23	短答		○	◎		思			○		読み取った内容をふまえて、英 文を完成させることができる。	49.4	45.0	45.9
24	短答		○	◎			単語の並べかえ による英作文			○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(have to ~ の否定文)	83.9	75.0	73.2
25	短答		○	◎						○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(動名詞の疑問文)	90.8	75.0	77.7
26	短答		○	◎						○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(be going to の疑問文)	94.3	80.0	88.7
27	短答		○	◎						○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(look (SVC) の否定文)	46.0	55.0	55.7

①

①

教育課程実施状況調査 【中学校・英語B】

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
28	記述	○	◎			表	場面に応じて 書く英作文			○	27.6	30.0	21.2	
29	記述	○	◎			表				○	22.4	30.0	14.2	
30	記述	○	◎				3文以上の 英作文			○	63.2	55.0	51.8	
31	記述	○	◎			表				○	78.4	60.0	62.2	
32	記述	○	◎			表				○	70.7	50.0	51.3	

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 大問2(3)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	87.9	80.0	7.9	83.6	4.3	理	選択
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(だれのギターかとたずねられて)						

【目標値を上回る設問】② 大問11(テーマにそって、3文以上で書かれている。)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	70.7	50.0	20.7	51.3	19.4	表	記述
問題の内容	3文以上の英作文						
出題のねらい	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった3文以上の英文を書くことができる。						

【課題となる設問】① 大問5

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	25.3	30.0	-4.7	19.5	5.8	理	記述
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。						

【課題となる設問】② 大問10(2)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	22.4	30.0	-7.6	14.2	8.2	表	記述
問題の内容	場面に応じて書く英作文						
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whyを使って理由をたずねる)						

【授業改善のポイント】

○調査結果をふり返っての考察

ほぼ全ての項目において、目標値と全国平均を上回っていて、いずれの観点・領域においても、高い正答率を示している。特に、「聞くこと」「読むこと」の領域における「外国語理解」の部分で高い正答率を示しており、小学校外国語の活動から英語を聞く場面に多く触れることで、英語を聞くことに慣れつつあることや、読む力を身に付けるために必要となる教科書等を読解するような場面における授業方法の改善等、様々な取組が成果となって表れて来たといえる。「外国語表現」において高い正答率を示しているのも、小学校の段階から英語を使って話す場面を多く経験し、英語で表現する活動に慣れつつあることが成果として表れて来ているといえる。また経年的に課題の見られる領域である「書くこと」についても改善傾向がみられた。

しかし、複数の領域を統合させながら書いて解答するような問題において、課題がある。特に聞いたことをもとに書く場面や対話の流れに沿って書く場面など、複数の領域を活用させながら最終的に英語で書いてまとめるような力にはまだまだ課題が多く残っているといえる。

以上の考察をもとに、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

○授業改善のポイント

「複数の領域を統合させながら、最終的に書いてまとめる力」を高めるために

(1) 日々の授業で複数の領域を統合させた活動を意図的に取り入れる

例えば、教科書等の内容について、読んだことをもとに自分の意見や感想を友達と話す。話したことをもとに、友達の考えも参考にしながら、自分の意見や感想を書いてまとめるような活動を行う。

(2) 教師の発問などを有効的に活用しながら、書く活動はステップを踏んで取り組む

例えば、書く活動を行う際に、いきなり題材を与えるのではなく、教師の発問を有効的に与えながら、やり取りをしていく中で、つながりのあるまとまった英文を書くことができるようなステップを踏んだ場面を作る。

(3) 書いた英文を自分たちで確認し、間違いに気付く場面を設定する

例えば、完成した英文をペアやグループ等でお互いに読み合い、間違いがないか確認し合う。特に多く見られるような特徴的な間違いは教師がクラス全体で取り上げ、共有するなどしながら、英文を自分たちの力で修正し完成していくような場面を作る。